

社会教育委員会報告書

ウィズコロナ・アフターコロナの地域づくり



令和5年2月

令和3・4年度 御殿場市社会教育委員会

令和3年・4年度 社会教育委員会報告書

「ウィズコロナ・アフターコロナの地域づくり」をテーマに社会教育委員会で討議した結果について、次のとおり報告します。

令和5年2月16日

御殿場市教育委員会教育長 勝亦 重夫 様

御殿場市社会教育委員会

委員長	山下	清春
副委員長	杉山	葉子
委員	福島	英子
委員	川内	豊
委員	川口	修江
委員	良知	不二子
委員	鎌野	美子
委員	永田	理絵
委員	濱田	宏美
委員	勝又	康次
委員	小澤	徳也
委員	勝間田	清次
委員	勝又	栄子
委員	山本	千鶴

目 次

1 はじめに	1
2 御殿場市の区(自治会)について	2
3 現状と課題	3
(1) 現状	
① 新型コロナウイルス拡大中の地域活動の現状(令和3年度)について	
② 令和4年度における地域活動について	
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大による地域活動の課題	
① 課題1 行事の中止・延期が続くことによる行事の継続性の低下、それに伴う地域コミュニティの衰退	
② 課題2 新型コロナウイルス感染症等対策における行事の実施方法の検討	
③ 課題3 アフターコロナの新たな地域づくりに向けた情報収集の必要性	
④ 課題4 コロナ禍をきっかけにした行事の在り方の見直しの必要性	
⑤ 課題5 新たな地域コミュニティの検討	
4 提言	11
(1) コロナ禍における行事実施の可否の見直し	
(2) 感染リスクの低い方法での行事の実施	
(3) 他地区等の広い地域からの学び	
(4) 人と人との繋がりを持てるような行事への発想の転換	
(5) 強固な絆の地域コミュニティの構築と地域づくりの発展	
○ 資料編	15
(1) 人と人との繋がりを大切にしている優良な取り組み事例	
(2) ウイズコロナ・アフターコロナの地域づくりに関するアンケート結果	

1 はじめに

令和2年より新型コロナウイルスの感染拡大によって経済活動を始め、各種イベントや学校行事等ほとんどの活動が中止、延期を余儀なくされました。

令和3年からは、社会全体ではコロナ禍での新しい生活様式としてのリモートワーク、旅行等が少しずつ定着し始め、地域でも感染対策を講じた行事の実施、また学校でもタブレットを使った学習等、これまでになかった取り組みが実施されています。

新たな取り組みの一方で、コロナ禍による生活様式の変化により、地域活動の簡素化によるコミュニティの衰退や、正常な生活を送ることができない子どもたちへの心身の影響が問題となるのではないのかという意見が御殿場市社会教育委員会(以下、「社会教育委員会」という。)内で提起されました。

社会教育委員会では、地域活動が住民同士の交流の基盤となり、また子どもたちを地域のみんなで見守り育てていくことにもつながると考えました。そのような経緯から、各区(自治会)へのアンケート調査を行い、コロナ禍及びその後の未来に向けた地域づくりをテーマに討議を重ね、「ウィズコロナ及びアフターコロナにおける地域づくり」について提言をするものとします。

2 御殿場市の区(自治会)について

昭和30年2月11日、人口約3万8千人の御殿場市が誕生しました。その後、町村合併促進法に伴う村・地区の編入や、新たな区の独立を経て、平成21年4月1日、現在の6地区(御殿場、富士岡、原里、玉穂、印野、高根)59区という形態となりました。

区は組・班に細分化され、地域に住む人たちが親睦と交流を深めながら自主的に運営し、地域における問題解決に取り組むと共に、住みよい豊かなまちづくりに努めています。

御殿場市では、区(自治会)活動が大変活発であり、「自分たちの居住区は、自分たちの手で住みやすくしよう」という意識のもと、様々な活動に取り組んでいます。

具体的な活動として、

- (1) 災害に備えた自主防災組織を作り、防災訓練の実施や防災倉庫の管理
 - (2) 防犯交通安全活動として、防犯灯の設置や防犯パトロールの実施
 - (3) 地域福祉活動として、いきいきサロン・子育てサロンの開催、赤い羽根共同募金への協力
 - (4) 河川清掃等の環境美化活動の推進
 - (5) 夏祭りや体育祭、及び文化祭等幅広い世代向けの行事の開催
- など、他にも様々な活動を行っています。

このように活発であった地域活動でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、縮小又は中止となってしまう活動も少なくありませんでした。

3 現状と課題

社会教育委員会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う区の行事の開催状況や、今後の開催予定を調査するため、令和4年1月から2月の期間に、市内59区へアンケートを行いました。回答者は、令和3年度区長及び区役員、回答率は100%でした。調査項目は以下のとおりです。

<調査項目>

1. 区主要5行事(体育祭、文化祭、夏祭り、防災訓練、河川清掃)の令和3年度実施状況、令和4年度実施予定
2. コロナ禍を経験して、今後も実施した方がよいと思う行事、これを機になくしてもよいと思う行事
3. コロナ禍での区の活動について苦勞したこと、工夫したこと、やって良かったこと
4. 地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み
5. 各区の特色ある行事
6. 区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること

(1) 現状

①新型コロナウイルス感染症拡大中の地域活動の現状(令和3年度)について

調査項目1. 区主要5行事の令和3年度実施状況についての回答は以下のとおりです。

【体育祭】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R3	実施した	1	1.7%	0	0	0	0	1	0
	中止した	53	89.8%	15	12	9	6	2	9
	元々計画なし	5	8.5%	0	3	1	1	0	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【文化祭】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R3	実施した	3	5.1%	0	3	0	0	0	0
	中止した	51	86.4%	13	12	8	7	2	9
	元々計画なし	5	8.5%	2	0	2	0	1	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【夏祭り】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R3	実施した	3	5.1%	2	0	0	0	1	0
	中止した	51	86.4%	11	13	9	7	2	9
	元々計画なし	5	8.5%	2	2	1	0	0	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

「体育祭」、「文化祭」、「夏祭り」に関しては、90%近い区で中止という結果となりました。多くの人が集まる行事については、感染拡大防止の観点から中止と判断したようです。

【防災訓練】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R3	実施した	59	100%	15	15	10	7	3	9
	中止した	0	0%	0	0	0	0	0	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【河川清掃】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R3	実施した	57	96.6%	15	15	10	7	3	7
	中止した	2	3.4%	0	0	0	0	0	2
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

「防災訓練」、「河川清掃」に関しては、人命や安全に関わる訓練や、環境美化のために必要不可欠な行事であるという認識の区が多く、9割以上の区で実施されました。

また、実施方法については、「防災訓練」は、参集訓練のみで解散とした区や、全区民の

参加ではなく、区の役員や自主防災会のみで訓練を実施する等、例年と方法を変更して実施していると回答した区がほとんどでした。

②令和4年度における地域活動について

調査項目1. 区主要5行事の令和4年度実施予定についての回答は以下のとおりです。

【体育祭】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R4	実施予定	23	39.0%	7	1	5	3	2	5
	未定	31	52.5%	8	11	4	3	1	4
	元々計画なし	5	8.5%	0	3	1	1	0	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【文化祭】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R4	実施予定	24	40.7%	6	4	5	3	1	5
	未定	28	47.4%	6	10	3	4	1	4
	元々計画なし	7	11.9%	3	1	2	0	1	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【夏祭り】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R4	実施予定	26	44.1%	7	3	6	3	3	4
	未定	28	47.4%	6	10	3	4	0	5
	元々計画なし	5	8.5%	2	2	1	0	0	0
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

令和3年度と同様に、上記3行事については、感染拡大の終息が見通せないため、実施は未定としている区が多くみられました。反対に、令和3年度の経験から開催方法を例年と変更し、中止ではなく何らかの形で工夫して実施しようと計画している区も半数近くあるという結果となりました。

【防災訓練】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R4	実施予定	49	83.1%	13	11	10	5	3	7
	未定	10	16.9%	2	4	0	2	0	2
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

【河川清掃】

年度	回答内容	全体		地区別回答数					
		区数	割合	御殿場	富士岡	原里	玉穂	印野	高根
R4	実施予定	53	89.8%	15	14	10	5	3	6
	未定	6	10.2%	0	1	0	2	0	3
	合計	59	100%	15	15	10	7	3	9

「防災訓練」と「河川清掃」も令和3年度と同様に、90%近い区が実施予定としていることが分かります。昨年度同様に実施方法を検討した上で、実施を計画している区が多いようです。

「調査項目2. コロナ禍を経験して、今後も実施した方がよいと思う行事」について、最も回答の多かった行事は、防災訓練、河川清掃でした。理由としては、区民の安全に関することなので備えをしっかりとっておきたいというものでした。また、「これまでやってきた行事は全て実施したい」と回答した区が多くありました。このように回答した区は共通して、区民に喜んでもらえる行事は続けるべきだという理由からです。

この回答結果から自治会は、コロナ禍で行事の規模縮小や中止等の制約がある中でも、「区民の安全を守ること」「区民が楽しむため」といった区民のためにという強い思いを持って、様々な工夫を凝らして行事实施に向けて活動していることが分かります。

（２）新型コロナウイルス感染症拡大による地域活動の課題

アンケート調査によって判明したコロナ禍の地域の現状に基づき、社会教育委員会として、以下の５つの課題が見えてきました。

① **課題１** 行事の中止・延期が続くことによる行事の継続性の低下、それに伴う

地域コミュニティの衰退

「調査項目３. コロナ禍での区の活動について苦労したこと」の回答の中で、コロナの感染拡大状況に左右され、実施予定で準備を進めていた行事を急遽中止しなければならなかったことに苦労した、という意見が最も多い結果となりました。

また、実施や中止となった場合の段取りの打合せに関しても、従来どおりできないことが多く、時間を要し、負担も大きかったという回答がありました。

打合せがスムーズにできないことにより、区の役員の引継ぎにも悪影響を及ぼす可能性があります。結果的に、行事の開催方法の引継ぎがきちんとされず、今後の区の行事の開催に苦慮することが危惧されます。

区の行事が継続していかない状況が数年間続いてしまうと、地域の人々の交流の場が減ってしまうことに繋がり、それはやがて地域コミュニティの衰退が危惧されるという問題に繋がることが考えられます。

しかし、区の神社の祭礼等に関しては、長い年月をかけて伝統を守るため続けてきたという観点から、地域コミュニティの創出よりも行事の継続性を最重要視する区の考えもあります。また、昨今では、神社の祭礼と区の行事は分けて考えるという方針の区もあります。

このように、区によって行事への捉え方には様々な考え方がありますが、行事を通して区民は交流し、地域コミュニティが創出されます。コロナ禍によって地域コミュニティが衰退してしまう可能性があるということは、区民が生活をしていく上で深刻な問題となり得ると考えます。

② 課題2 新型コロナウイルス感染症等対策における行事の実施方法の検討

6ページのアンケート結果によると、防災訓練等の区民の安全に関連する行事は実施している反面、それ以外の体育祭や文化祭等の行事は中止となっています。しかし、自治会は「区民のために」という強い思いを持ち、全ての行事实施に向けて活動していることが分かりました。

体育祭や文化祭はなぜ中止となるのか。それは密になりやすく、感染拡大の可能性が高い行事であり、また、行事に参加することに感染リスクがあるため、参加する側の区民及び、運営側の役員双方が不安を感じてしまうからではないでしょうか。

区の行事を実施したいという思いがある反面、新型コロナウイルス感染症防止対策のため行事の中止という判断をするという苦しい状況の打開、また、区民が安心して行事に参加するためには行事の実施方法の見直しが必要です。

このような点から、現在のコロナ禍という状況で行事を実施していくためには、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、実施方法を従来の方法から見直していくという課題が考えられます。

③ 課題3 アフターコロナの新たな地域づくりに向けた情報収集の必要性

令和2年より、新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めてから3年が経過しましたが、世界中で未だ、感染予防や治療に関する明確な解決策は見つかっていません。

新型コロナウイルス感染症はこれまで誰も経験したことがない疾病であるため、私たちは今後も長年に渡り、この未曾有の感染症と付き合っていかなければならないのです。

しかし、世界中で言われているとおり、社会経済活動等を止めてしまえば、私たちの生活は停滞してしまうのです。これは先ほどから記述しているように、地域活動にも同様のことがいえます。

ウィズコロナ・アフターコロナの地域活動を行っていくためには、何より情報が必要ではないかと考えます。そのため、少しでも良いアイデアを取り入れ、実践していく必要

があります。現在のコロナ禍もちろんですが、今後の未来を見据えて、情報収集をしていくべきなのではないかと考えます。

④ 課題4 コロナ禍をきっかけにした行事の在り方の見直しの必要性

「調査項目2. コロナ禍を経験して、これを機になくしてもよいと思う行事」について、最も多かった回答は、体育祭でした。理由としては、各組からの参加者の選出が難しいことや、参加者の高齢化が進んでいることが多く挙げられています。

体育祭を実施する際には、各組から〇名を選出しなければならない、といった義務感から渋々参加する人も多いようです。また、特に若い世代の家族層などは、ライフスタイルの多様化により区の行事に参加できないこともあり、参加者の高齢化が課題となっています。また、行事実施に伴う準備や片付け等、役員の負担も大きいものとなります。とはいえ、負担が大きいからといってその行事をなくしてしまえばいい、という考えでは課題1の中でも記述した、行事の継続性が低下することによる地域コミュニティの衰退という問題が発生するおそれがあるので、何らかの形で行事を継続していく必要があるのではないのでしょうか。

そのためには、行事の在り方の見直しが必要です。行事は、区民にとって何のために実施しているのかということを区民・区役員が再認識することで、今よりもっと幅広い世代の人々が参加しやすい行事を構築することにも繋がるのではないかと考えました。

⑤ 課題5 新たな地域コミュニティの検討

課題1～課題4の中で記述してきた様々な課題がありましたが、共通して言える課題は、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、地域活動が停止し、地域の人と人との繋がりが希薄化してしまうという点です。

今後続くウィズコロナ、及びアフターコロナの生活の中で、地域活動を衰退化させないために、新たな地域コミュニティの検討が必要であると考えます。

課題1～課題4でも記述されてきたように、長きに渡り培われた地域コミュニティをベースにこれまでの運営方法の見直しを行い、ウィズコロナ・アフターコロナに則した新しい様式を取り入れて運営していくということとなります。

昔から行われてきた地域活動の良い面はもちろん残しつつ、新たな地域コミュニティの検討は非常に重要な課題といえます。

4 提言

以上のとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の現状を踏まえ、多くの地域活動の課題がみえてきました。それらの課題に対し、ウィズコロナ及び、アフターコロナへ向けたよりよい地域活動のため、以下の5つの提言をいたします。

(1) コロナ禍における行事実施の可否の見直し

課題1の中では、新型コロナウイルス感染症拡大状況に左右され、行事が実施予定から急遽中止となり、運営側の負担が大きかったという意見が多くありました。

この点は、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた頃に行事を実施しようとした際の最も多いケースであったかと思います。

こういった事が続くと、行事の運営側のモチベーションの低下や、行事自体の継続に悪影響を及ぼす要因となります。

今後も地域行事の運営をしていくにあたり、新型コロナウイルス感染症の拡大状況は実施判断に影響を及ぼすかと思います。しかし、国や地方自治体でも示しているように、経済活動やイベントは極力止めないという方針のもと、できるだけ実施するという方向でいくべきと考えます。

県内、市内でのコロナ感染者数の状況を見て判断するのも必要なことかと思いますが、感染者数だけに囚われるのではなく、地区独自の行事実施のボーダーラインや、行事開催の際の、「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」等を作成し、地区として主体的に基準を設けて積極的に行事を実施していくことが、ウィズコロナの生活に必要なのではないのでしょうか。

（２）感染リスクの低い方法での行事の実施

課題2の中で記述されている、行事の属性(防災訓練等の安全に関する行事や、体育祭、文化祭等の行事)によって中止や実施が分かれてしまう点については、実施方法を従来と変更し、感染リスクの低い方法で行事を実施することで、どの行事においても区民が参加しやすい環境づくりに繋がるのではないかと考えます。

【具体策】 密にならない方法

- ・1日で一斉に実施していた行事を、複数日で行い、時間帯をずらす。
- ・会場をより広い場所を選び、人と人との間隔を空ける。
- ・これまで屋内で行っていた行事を可能であれば屋外で実施する(参加者の安心感)
- ・ICT 化を促進し、行事を対面だけでなくリモート開催も選択肢に入れる。

例)文化祭の様子を WEB で配信する

（３）他地区等の広い地域からの学び

課題3で記述されていたように、ウィズコロナ・アフターコロナの地域活動を行っていくためには情報収集の必要性は重要な課題です。

コロナ禍以前から、地域活動の課題解決へ向けた取り組みはどの地区も行ってきたところではありますが、自身の区だけでは解決しきれないこともあるかと思います。

そのような時は自身の区以外へ目を向け、視野を広げるのも1つの方法ではないかと考えます。他地区の取り組みを知ることで、これまで自身の区では思いつかなかった発想が参考になることがあるからです。

区内の役員間での話し合いはもちろんのこと、より広いアンテナを持ち、市内の他地区、また市外、全国的な取り組みに関する情報を、新聞、テレビ、インターネットや雑誌等、様々な媒体で収集し、学ぶことも必要です。

また、参考として、この報告書の最後の資料編とし、市内 59 区からのアンケート結果

を掲載しています。また、アンケート結果の中での各地区の取り組みの中で特に、ウィズコロナ・アフターコロナの時代に則した人と人との繋がりを大切にしている取り組みだと社会教育委員会が感じたものを更に具体的に追加調査した結果も掲載しています。

（４）人と人との繋がりを持てるような行事への発想の転換

課題4の中で記述されている、行事の義務的な参加や、参加者の高齢化も今後の地域活動の存続に関する大きな課題です。

これらの課題を解決するためには、行事の在り方を見直す必要があります。地域の行事とは、何のためにあるのか。それは、人と人との繋がりを持つためではないでしょうか。もちろん、区民の楽しみを創出するため、また地域の安全を守り、環境美化といった理由もありますが、大前提として、行事参加により同じ地区の住民同士の繋がりを持つきっかけを作ることがあるのではないかと考えます。

毎年実施しているから、〇人参加者を出さなければならない、参加しておかないと近所の人から不快に思われる気がするから、こういった理由から嫌々参加するのではなく、参加することで、普段、学校ではあまり話さない友達と交流できるかもしれない、普段付き合いのある人以外とも顔見知りになれば、災害時等にも協力し合えるかもしれない、といった何かしらのメリットがあるという考えを区民が持てば、行事への参加者はより増加するのではないのでしょうか。そのような参加することでプラスとなる面をもっとPRし、区民が前向きに参加できるように工夫することが大切です。

（５）強固な絆の地域コミュニティの構築と地域づくりの発展

私たちは、これまで誰も経験したことのない、新型コロナウイルス感染症という困難と共存し、乗り越えていく必要があります。

そのためには、これまで提言で取り上げたような取り組みや、地域みんなで新たな発

想・手法を持ち寄り、協力して地域づくりをしていくことが重要です。

新たな手法の一つとして、ICT 化の促進が挙げられます。

ICT とは、情報通信技術のことで、ICT 化とはアナログの業務を ICT に代替していくことを意味します。ICT 化を推進していくことは、業務の効率化や、人員削減といったメリットが見込まれます。

これを地域づくりに取り入れることで、地区の運営の効率化に繋がると考えます。例を以下の通り列举します。

【具体例】

- ・区のホームページの作成をし、区の行事等のお知らせを掲載することで、区民は回覧版よりも早く情報を知ることができる。
- ・公民館の利用予約方法に WEB 予約を導入することで、公民館スタッフの予約受付業務(電話番号等)の負担が減り、予約者も 24 時間予約をすることができる。
- ・役員間の連絡網を LINE グループとし、連絡手段の簡素化を図る。電話での連絡を回すより、リアルタイムで同時に情報を共有できる。
- ・行事をリモート開催することで、感染拡大している時期でも、行事が開催できる可能性がある。展示等は、リモートでの開催が可能。

これらはあくまで一例ですが、このように ICT を推進し、今後数年先にも次々に出てくる新たな手法を取り入れつつ地域づくりに取り組んでいくことで、より発展した地域づくりができるのではないかと考えます。

また、現在世界的に注目されている、SDGsを意識し、小さな事からでも取り組んでいくことで持続可能な地域及びまちづくりにも繋がっていくのではないのでしょうか。

社会教育委員会は、市内全ての区(自治会)が、新型コロナウイルス感染症というピンチをチャンスに変え、強固な絆で結ばれた地域コミュニティを創出し、地域づくり活動がより活発に行われ、発展していくことを願っています。

○ 資料編

この資料編では、市内 59 区からのアンケート結果、及び各地区の取り組みの中で特に、ウィズコロナ・アフターコロナの時代に則した人と人との繋がりを大切にしている取り組みだと社会教育委員が感じたものを更に具体的に追加調査した結果も掲載しています。これらの情報を基に各地区の新たな取り組み等の参考として活用していただけることを期待しています。

（１）人と人との繋がりを大切にしている優良な取り組み事例

事例1 公民館開放事業

区名	町屋区
目的・趣旨	地区内の世代間交流を図る
取組開始時期	令和4年度より
実施時期	2カ月に1回実施
内容	様々な世代が一堂に会し、子育て中の母親の助けになる助言を地区の方からいただいたり、小学生以下、一般など区分けをしたうえでいろいろな交流事業を実施したいと考えている。 ただし、今はコロナで実施計画を立てるための役員会が出来ていない状況。5月中旬に役員を集めて計画を練りたい。リーダーは決定している。 2か月に1回程度、公民館で実施。
事業費	支所からの補助金10万円の範囲で行い、区からのお金は予定していないが、ブラスバンドを呼んだ場合は区から8万円程度もらって実施することを考えている。
参加対象者	区民全般(子育て中の母親、小学生、高齢者など)

○特徴的な点

- ・令和4年度から始まった新規事業であること
- ・子育て中の母親の支援、高齢者の居場所作りにもつながる事業であること

事例2 森山道整備

区名	二の岡区
目的・趣旨	ハイカーに優しい山道作りを二の岡区の大人と中学生という世代を超えた共同作業をすることで、地域としての質の向上を図る。
取組開始時期	平成16年8月から
実施時期	コロナ前:8月第1日曜日 コロナ禍:11月第1日曜日
内容	<コロナ前> 危険が大きい草刈・倒木処理は大人、階段の補修・作成、土のう作り、杭打ちは中学生が行う。約6kmのコースを山道入口から駿河台まで整備。 <コロナ禍> 大人のみで実施。草刈り・倒木処理と、簡単な補修。 要所を決めて実施。
事業費	コロナ前:25万～35万円(弁当・飲料・バス代 他) コロナ禍:10万円
参加対象者 参加人数	中学生(南中)120人、教員3人、地域役員30人、長寿クラブ20人、協議員10人 ※コロナ禍では中学生・教員は不参加、他も人数制限した。

○特徴的な点

- ・参加者対象者の幅が広く、世代を超えて区民間の交流ができる。
- ・山道を歩きながら整備していくため、健康にもよい取り組みといえる。
- ・環境美化にも配慮した取り組みといえる。

事例3 サツマつる挿し、カワニナ放流事業

区名	栢ノ木区
目的・趣旨	多世代交流、自然環境を守る
取組開始時期	サツマつる挿し:子供会と花の会でタイアップするようになったのは約20年前 カワニナの放流:時期は不明だが5年以上前から行っている。
実施時期	サツマつる挿し:5月末に実施
	【サツマつる挿し】 子供会と花の会とのタイアップ事業。 区内の空畑を借り、1柵 6mの畝を 1～6 年生で1柵ずつ作る。 ＜コロナ前＞ 一堂に会して作業を行い、収穫したものを公民館に持ち寄り、芋汁や焼き芋にしていた。 ＜コロナ後＞ 時間を分けて 2 部制で実施。64 名を学年で分けて実施。収穫した芋は持ち帰り。
	【カワニナ放流】 放流の前に、神社のゴミ拾いをしている。 川沿いの行事で危険もあるため、保護者にも参加してもらう。 元々、蛍のいる川だが、カワニナを放流することでより多くの蛍を見ることができる。
事業費	サツマつる挿し:4～5万円
参加対象者 参加人数	サツマつる挿し:小学生、子供会の理事(保護者)、 花の会(60 歳以上)80 名近く カワニナ放流:小学生、子供会の理事、蛍の川を守る同好会

○特徴的な点

- ・小学生が自然に触れることができ、環境美化に興味をもつ機会となる。
- ・子供会だけでなく、花の会や蛍の川を守る同好会も入ることで多世代の交流を図ることができる。

事例4 水かけ菜摘み取り体験

区名	二子区
目的・趣旨	地区内にある湧水の恵みを体験し、感謝の気持ち、特産品を知る。
取組開始時期	平成 24 年度から
実施時期	10 月～11 月に播種作業、2月に摘み取り体験を実施。
内容	・平成24年 10 月 二子湧水感謝祭の実施を目指し、実行委員会を組織。また、他地域へのアピールのため、水かけ菜オーナー制度も同時に計画し、水かけ菜の播種作業を行った。 ・平成25年2月 第1回二子湧水感謝祭を実施。感謝祭事業の一環で富士岡小学校4年生の総合的な学習として水かけ菜の摘み取り体験を行い、校長を始め子どもたちが楽しく農業体験をする機会を設けた。 ・平成 25 年11月より 富士岡小学校4年生を対象に、二子湧水の歴史と利用、区民の取り組みについて学ぶ場を提供。 例年 10 月～11月にかけて種を撒き、追肥等は湧水保存会、区民が行っている。 このような取り組みが県から評価され、「ふじのくに美しく品格のある邑」として、「二子湧水の里」という名称で平成 26 年度に認定されている。
事業費	湧水保存会にて追肥等の維持管理
参加対象者 参加人数	二子湧水保存会(会長:三井 米木氏) 二子区民 富士岡小学校4年生、教員

○特徴的な点

- ・地域住民、学校(児童・教員)との交流を図ることができる。
- ・単なる農作物の収穫体験というだけでなく、その歴史を学び、地域の湧水に感謝をするという大切さを教えている。

事例5 ウォークラリーと花いっぱい運動

区名	神山区
目的・趣旨	花で地区を美しく保ち、ウォークラリーや露店等様々な催しを実施し、区民に喜んでもらう。
取組開始時期	花植え活動は以前から区の役員で実施していた。 ウォークラリーを一緒にしてイベント化したのは約4年前
実施時期	春：6月、秋の年2回実施
内容	【春：ウォークラリーと花いっぱい運動】 市から提供された花苗を区内複数箇所に植える。これをウォークラリーと併せて行う。 ・ウォークラリーの流れ 公民館→時之栖の三角地→時之栖内→復生病院内→公民館 チェックポイント毎に花を植え、レクリエーションも実施。 【秋：神山ふるさと祭り】 元々実施している、区の祭り内の行事の一環として行う。 春のウォークラリーと花いっぱい運動と同様のことを行う。 ふるさと祭りの際は、ウォークラリー終了後にお弁当を販売したり、野菜を配ったりしている。 ※コロナ前とコロナ禍の違い ・ウォークラリーのスタートの際に、一斉スタートしていたが、コロナ禍では、順番にずらして出発するようにしている。 ・秋のふるさと祭りは、コロナ禍では実施していないため、規模を縮小し、「大収穫祭」という名称で、上記の行事を行っている。
事業費	花は市から提供のため無料 花の管理は、組の人や近所の方が自主的に行ってくれている。 収穫祭は、弁当代等 20 万円程度
参加対象者 参加人数	区民全体 若い家族の参加も多く、幅広い世代が参加している。<u>コロナ禍であるが、年々参加者は増加している。</u> 事業企画は地区まちづくり委員

○特徴的な点

- ・花いっぱい運動を実施することで、環境美化及び景観の向上を図ることができる。
- ・屋外で行う行事であるため、コロナ禍でも参加しやすい行事といえる。
- ・地域内を歩きながら活動できるので、地域のことを知るきっかけになる。

事例6 青い鳥文庫

区名	大沢区
目的・趣旨	子供たちが本に慣れ親しみ、本の中の世界を自分なりに楽しみ、そして本を通じて様々な人と出会い、自由に語り合える、という願いのもと開設する。 ・日本の名作を聴いたり、詩・文を朗読したりしながら文学に親しむ。 ・地域に文学文化を広める。 ・お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、歌を歌ったり楽しいひと時を過ごす。
取組開始時期	平成 13 年 11 月：地域文庫「青い鳥文庫」として開設 平成 23 年 6 月：美しい日本語を楽しむ会 平成 24 年 6 月：子どもの居場所「ピーターパンクラブ」
実施時期	美しい日本語を楽しむ会：月1回(第1水曜日) ピーターパンクラブ：月2回(第2・4土曜日) 原里小学校放課後児童クラブの読み聞かせ：年 10 回
内容	○美しい日本語を楽しむ会 ・日本の名作の CD を聴く。 ・みんなで名文の一節や名文句等を大きな声を出して読む。 ・歌を歌ったり、おやつを食べながらおしゃべりをしたりして楽しく過ごす。 ○ピーターパンクラブ ・紙芝居、絵本を見る。 ・季節にちなんだ遊び・卓球・けん玉・ゲーム・折り紙等の遊び ・おやつを食べる。 ・敬老会やクリスマス会で朗読劇やクイズなどの出し物をする。 ○原里小学校放課後児童クラブにて読み聞かせをする。 ○公民館2階で蔵書整理する。 蔵書数約 1,200 冊(区購入：254 冊、残りは図書館、地域から寄贈) ※コロナ禍の為、「美しい日本語を楽しむ会」「ピーターパンクラブ」は活動を休止している。再会する時は回覧版で周知する。
事業費	区での図書購入費 区からの補助金：3 万円(子どもからは集金しない)
参加対象者 参加人数	美しい日本語を楽しむ会：区民 ピーターパンクラブ：小学生 読み聞かせ：原里小学校放課後児童クラブ

○特徴的な点

- ・読み聞かせは、子どもが読書に携わり、文学を楽しむきっかけを作ることで豊かな心の育成に繋がる。
- ・敬老会やクリスマス会は、子どもたちが日頃の活動成果を発表する場になり、幅広い世代の交流を図ることができる。
- ・「美しい日本語を楽しむ会」は様々な年齢層が参加できる。

事例7 シニアクラブ事業

区名	中畑西区
目的・趣旨	区内の高齢者が孤独にならないよう、交流の幅を広げ、顔つなぎ(終活)をする。 会員全員が情報(趣味など)を収集し、共有して会員の獲得に努める。
取組開始時期	令和2年より開始(会員の獲得依頼は役員会で通年実施)
実施時期	主に平日の活動
内容	(1)会員獲得情報の共有 月々の役員会で会員全員の氏名一覧表を共有し、組内の情報だけでなく、区内全般の情報を基に会員を獲得する。 (2)会員を通じた情報の収集 通常年末に実施していた忘年会をコロナ禍で中止して、クリスマスプレゼントとして会員全員にコミセン玄関で配布、その際の雑談で顔見せ・顔つなぎ(終活)・会員情報の獲得に資す。 (3)同じ趣味の人との事業実施 シニアクラブ事業以外に同じ趣味を持つ会員以外と、会員とのゴルフ大会を実施し、会員への入会(近い将来の入会)を促す。 これらの活動内容が評価され、県から表彰を受けた。
事業費	年会費 500 円/人
参加対象者 参加人数	会員数 104 名(内役員は 15 名) 会員の多くは 60 歳以上

○特徴的な点

- ・今後の高齢化社会、高齢者の孤独化への有効な対策となる取り組みで、時代に合ったものといえる。
- ・区内で取り残される人が発生しないよう積極的な情報収集をし、会員獲得に努めている。

事例8 ハッピーワールド・きよさとの会

区名	清後区
目的・趣旨	地区内の幅広い年齢層の人のつながりを目的とする。
取組開始時期	10 年以上前から実施
実施時期	年間を通して毎月様々な事業を実施
内容	【ハッピーワールド】 未就学の幼い時期から同じ地区の友達(親同士も)との交流を図る。子どもが入学する頃には、保護者同士も顔見知りになっている。七夕や陶芸体験、クリスマス会などを主に公民館で実施。納涼祭にも参加。老人会との交流で、昔の遊びを教わる。幼児だけでなく、上の兄弟も参加可能。 【きよさとの会】 血圧測定、健康体操を定期的に実施。草取り、花壇の手入れ。
参加対象者 参加人数	・参加人数 ハッピーワールド:未就学児、兄姉とその親対象(40 人弱) きよさとの会:高齢者 70 歳以上(34 人) ・地区福祉推進委員をそれぞれの担当に充てている。

○特徴的な点

- ・これまで培ってきた地区の繋がりが途切れないように、できるだけ行事は中止せずに実施するようにしている。
- ・役員のモチベーションが非常に高く、企画・活動が積極的であること。役員の年代の幅も広く、40代～60 代くらいとなっている。
- ・子ども同士の繋がりだけでなく、就学前に保護者同士の繋がりを作る場となり、保護者にとっても有益な行事といえる。

(2) ウィズコロナ・アフターコロナの地域づくりに関するアンケート結果

●調査対象者：各区区長、及び地域づくり活動主事（副区長、公民館主事が回答した区もあり）

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦勞したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
【御殿場地区】							
1	御殿場区	防災訓練、河川清掃、文化祭、敬老会	<コミセン主事> 今までどおりで計画	体育祭	—	「高尾祭」夜間実施を昼間に変更した。毎年恒例行事のため、昨年中止の際には多くの意見をいただき、今後も工夫して実施に向け対応していきたい。	—
2	深沢区	体育行事は継続する。区民のコミュニケーションを大切にしたい	<公民館主事> 忠霊塔参拝、七歳児お祝い、成人式、例大祭	特になし、縮小にしても実施する。	体育行事	高齢者が一堂に合うことが少ないため、高齢者より区として別の行事を考えてほしいと提案があった。	公民館だよりの発行において、行事中止により紙面を埋めるのに苦勞した（写真を大きくした。）
3	東山区	—	<コミセン主事> 文化祭、夏祭り	—	—	—	—
4	東田中区	状況により役員と検討したい	文化祭、防災訓練	区民体育祭実施か否かを役員で検討したい。	—	「ガーデニング教室、防災訓練」内容を変更して、実施できたこと。 「成人式」飲食をやめて、赤飯飲み物等を持ち帰りにしたこと。	防災訓練
5	二の岡区	行事は通常通り行えないと継続が難しくなる。	森林道整備事業、交通安全活動、地域緑化活動、敬老福祉事業	—	—	全て実施する方向で計画を立ててから、中止としたため二重に大変であった。	<苦勞点> 各事業、開催/中止判断に時間を掛けて相談したこと。 <実施事項> 地域づくり三役は定期的に会合を行った。



4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
文化祭の開催、区関係の諸団体の活動支援（14団体への助成・協賛）、コミセンの使用開放	—	【伝統行事】高尾祭、吾妻大祭、祇園大祭 【コミセン活動】コミセン祭り（御殿場高校文化祭との併用開催）	—	子ども会の活用、祭典等	—
寄せ植え教室	女性の会による雑巾づくり、安らぎの会によるクリスマスカード作成配布。子ども会による七神社清掃。	牛淵雨乞祭	やすらぎの会による誕生祭。子ども会による七神社清掃。	—	寄せ植え教室
—	—	かぐら（正月、7月、10月実施） 観世音祭（4月18日実施）	神楽：正月、七夕、湯立 東山観世音祭 4/18	正月、元旦の歩け歩け	正月（1/1）歩け歩け大会 （東山コミセンから反時計回りにて巖島神社まで）
—	—	・4月に地蔵河原の清掃・お参り『深沢区（今年度）・東山区（次年度）・鮎沢区・東田中区』 ・8月に田中神社にある古文書の虫干しと除湿剤の交換『東田中区（今年度）・二の岡区』 ・2月に除湿剤のみ交換	—	—	—
森山道整備事業：区民と南中学校生徒と合同にて計画したが、今年も昨年と同様行えず役員のみで実施。	・区行事として老人会主催のカラオケ大会 ・長寿クラブの維持と、婦人会に係る組織の検討	—	・「森山道整備事業」世代間交流する事業で、地域の大人と南中学校生徒と一緒に山道整備という活動をする。 ・お囃子保存会、区民ハイキング、寄せ植え教室等、音楽祭	—	・各行事を通じて、笑顔で明るく元気よく接するように努めている。 ・ポスターを各所に掲示

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
6	鮎沢区	防災訓練、河川清掃、文化祭（陳列のみで飲食なし）	—	夏祭り（盆踊り）体育行事	—	中止か実施か判断が困難。 体育館を使用させないことが気の毒に思う。	—
7	新橋区	従前通りだが、体育行事に関しては見直しを検討していく	—	特になし。体育行事の見直しを検討しているが、コロナが主要因ではない。	—	令和2年度と3年度は多くの事業が中止になったが、地区内の各区が足並みを揃えて中止にしたので、判断に迷うことはなかった。事業を実施する場合は参加者の範囲、数を制限した。	—
8	湯沢区	防災訓練はコロナ禍でも重要と考える。災害はいつやってくるかわからないので、今後も継続していく。	防災訓練はコロナ禍でも重要と考える。	体育祭については、高齢化も進んできており、誰でも参加できるスポーツに切り替えて、過去実施してきたが、それでも参加者は減少、なくす方向で検討したい。	—	全ての行事で役員を縮小しての活動になっているので、参加していない役員の連絡体制に苦労している。特に会合（総会）は委任状があるため、なおさら大変だった。	—
9	萩原区	全部の行事を継続していきたい	—	大事なことなので、区長一人の判断では答えられない。	—	七歳祝いを中止し、批判も受けたりしたが、時期をずらして行い、やってよかったと思った。	—
10	二枚橋区	文化祭、夏祭り、防災訓練	—	体育祭	—	前年同様の活動を行った。	—
11	西田中区	—	<公民館主事> 防災訓練（実際に機能する訓練を目指す）	—	・いきいきサロン 5～6人の参加者に対して、担当者が10人を越し、予算と人件費などが無駄である。 ・体育祭 コロナに関係なく終了を検討。出場する選手が少ないため。今までも、短縮し午前中で終わるプログラムにして実施していた。	—	組長会議（毎月実施）をはじめ、各種の話し合いの出席は公民館主事の判断にて行った。

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
・子供会は独自で空き缶拾いを行っている。 ・老人会は「居場所づくり」の為、色々工夫して活動を行っている。 婦人会は近年解散のため、だんだん少なくなっている。	—	鮎沢神社例祭の前夜、花火大会と無形文化財（市）である祈禱三番おきなの奉納 ※令和２・３年度は中止	—	—	—
体育行事、文化祭、夏祭り、敬老会、新橋浅間神社例祭、区民ウォーク、防災訓練、歴史講座、おたっしゃ会（いきいきサロン）例年は神事のみ実施。防災訓練を除き、他はコロナで2年間中止。	—	祭祀保存会による太鼓、笛、獅子舞等の伝統芸能、御神楽稚児舞保存会による稚児舞。小学生を対象にした将棋教室「みなみ」（地域の大人が指導。区は会場を提供）	—	行事案内のチラシを回覧または各戸配布している。	—
さいと焼き（屋外のため、参加率は高い。）他部落の人も参加したいと申し出がある。	さいと焼き	１０月 秋葉神社祭典役員縮小して神主による式典のみ実施。宵祭りと神輿渡御は中止 １月１日 元旦祭り実施（参加方法は秋葉神社祭典同様） １月９日 成人者と七歳児の祝式典実施	今はコロナ禍のため２年近く中止しているが、ふれあいまつりを１１月上旬にやっていた（区民の絵画や写真など）	体育祭の種目で誰でもできるスポーツを目指し、輪投げ・バッコ（穴にボールを入れる）・スカットボール（ゴルフのようなもの）	体育祭の種目では、誰でも出来るスポーツを目指している。
八千代会（老人会）、婦人会（令和４年度からは区内活動のみの婦人部となる。）	—	地藏尊保存会、緑化活動、芙蓉教室（パークゴルフ・体操教室・詐欺電話対策講話等活動）	—	年齢問わず一番多く集まる行事としては、夏祭りや文化祭（ふれあい祭り）を行っている。	—
行事という行事がコロナのため神事を除いて中止。	—	—	—	神事に関しても最低人員で行い、密を避けること。	—
子供会行事 午前・午後の二部制にして、クリスマス会を行った。	—	—	行事に対して、出席者は同じメンバーで固定されている。（特に体育行事）新しく加入したいというメンバーが入りにくい状況になっている。 特色が消えていく。	—	楽しみを増やす ①餅まき②福引③当選番当て（宝くじ、年賀状のようなもの） など

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦勞したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
12	北久原区	盆踊り、グランドゴルフ大会	<副区長> 子供からお年寄りまでみんなで楽しめる行事。（サマーフェスティバル、区内一周マラソン等）	区体育行事	体育祭	盆踊り中止で子供に花火のセットを配布したこと。	河川清掃や防災訓練（一時避難）のように組・班の人たちが集まって顔を合わせる事が大切なので、やってよかった。 ※コロナ対策をした上で
13	仁杉区	七五三、成人式	<公民館活動主事> 神社での初詣	地区体育祭	体育行事等	敬老会の縮小	初詣会
14	栢ノ木区	夏祭り、文化祭、防災訓練	—	体育祭	—	行事が中止になったため、各人のつながりが難しかった。その中で、三密に気を付けて外での活動（花植、サツマツる挿し等、実施）	—
15	永原区	防災関連の行事は継続して実施する。	<公民館主事回答> —	現時点では、伝統的な行事は形を変えて継続したい。	—	人が過密にならないよう留意。防災訓練に多くの区民の協力が得られたこと。	防災活動→避難所開設訓練では、感染の疑いのある方と感染していない人が接することなく、避難できる避難所運営が出来た。

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
区ホームページの開設	【ミニミニサマーフェスティバル】公民館で子供に花火、子供と親に飲み物を配る。親子あるいは祖父母と孫で公民館に来た。花火を家に持ち帰り、一緒に楽しめた。 【子ども会によるクリスマス】子供たちにクリスマスプレゼントを渡す。子ども会の世話人さんたちが全員集まって、子供に渡した。親子で公民館へ歩いてくる人たちが多かった。	伝統行事の神楽	【風祭り】子供相撲北久原浅間神社の境内で行う。 【湯立神楽】神事として青少年団、神楽保存会が中心になって行う。子供神楽も一緒に行う。今年は１００名近い参加	コロナのため、多人数の行事はすべて中止した。	回覧板だけでなく、ＨＰでも行事の予定を伝える。
子ども会（秋祭り）	子ども会、消防団活動報徳者各種行事。	公民館活動（納涼祭、元旦祭）	公民館活動（盆踊り、初詣会等）	—	—
子供会：各行事が中止になったため、子供会で新たに計画し、１行事を行うことができた。（栢木子供会秋祭り） 老人会：密にならないよう芝生公園でのスポーツを実施。	—	花の会と子供会によるサツマつる挿し、芋掘りの実施、子供会による神社清掃、カワニナの放流	区文化継承の会・そば打ち・試食会、絵画、モルトの体験、作品展示	老人会による公民館での集まりを週１回で実施（娯楽、スポーツ等）	—
老人会（栄寿会）は多岐にわたる活動が行われ、市、県から表彰を受けている。	数人で集まり、野菜作りをすること。 月１回は集まり、次の作業について話し合う等	栄寿会全体及び各部門の活動。	子供神輿	防災訓練に対する事前広報及び実施内容の充実化。	目的をわかりやすく説明すること。

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
【富士岡地区】							
16	竜区	従来からの行事は継続	夏祭り、子ども相撲	—	—	夏祭りの花火打ち上げは好評だった。	—
17	萩蕪区	区民スポーツ大会、納涼盆踊り、敬老会、文化祭	<公民館主事> 規模を縮小して全て実施	—	—	感染状況で、実施の可否、規模の判断が困難だった。	—
18	沼田区	現状の行事（四季と一緒に行う行事）	—	—	—	（工夫）毎月の区費徴収を年2回に変更	—
19	二子区	神社の神事、防災訓練、公民館まつり、河川美化作業	・河川美化清掃（区民全員2回/年） ・道路清掃（区民全員2回/年） ・神社祭典4回/回 ・湧水関連行事（4回/年） ・その他区定例行事	区内が高齢化しているので、出来るだけ行事を増やさないようにして、合同にできる行事は合わせて行う様に計画している。	—	コロナ禍で、区の行事の大部分が中止となったため、若い役員の中に、行事の中止を前提に考えている者がいる点。	屋外活動を主体に区民多くの参加で出来る行事の実施 湧水によるマコモダケ、水かけ菜、森林事業での銀杏、アーモンドの育成
20	中山上区	—	—	—	—	—	—

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
子育てサロン いきいきサロン	—	風鎮祭：打ちはやし、 神輿、子供相撲等 夏祭り：出店、盆踊り フェスタ竈：秋祭り、 文化祭等 奥隅様祭典：竈区開祖 の祭、カラオケ大会等	・「あるきんぐ」 体振による地域整備さ れた所の散策、魚のつ かみ取り、軽スポーツ 等 ・吉田祭り ・いきいきサロン、子 育てサロン（現在は中 止）	各団体への参加呼びか け	行事のチラシ配布
子供会－天神講 老人会－月ノ開走例会 婦人部－子安講 念仏講－じゅずくり念 仏	—	・愛宏神社祭典、青季 感謝祭、風祭り、新嘗 祭 ・念仏講、じゅずくり 念仏	—	—	—
・ロマンチック街道育 成会のブルーベリー育 成作業と子供会芋掘り 後の合流食事会、女性 部役員の料理による自 然の中での子どもから 大人のふれあい ・子供会と区民参加の 蛍鑑賞会 ・いきいきクラブメン バーによる神社、集会 所等の清掃奉仕作業	—	・沼田湯立神楽：子の 神社例祭の神事芸能、 湯立てをし、神楽を舞 う。宵祭りに行われ、 本祭に直会、神楽還御 の神楽の舞が行われる2 日間のこと。 ・天神講（正月）：子 供会主催の行事。学問 の神様、菅原道真と草 大仕女を描いた掛軸を 掛けお参りし、食事す る。	伝統行事は行っている が、コロナ禍の状況を 踏まえ、一部実施。	毎月の定例会を最終日 曜に開催。富士岡地区 伝達事項、区の予定、 事業の協議等行う。 当日の行事報告、次月 の行事予定表を世帯配 布している。	—
子供会、老人会、ふれ あいの会、天神講	老人会はコロナを注意 し、定期的に活動中	湧水保存会の水掛け菜 の摘み取り体験（小学 生）、マコモダケの植 え付け・収穫作業	湧水による水かけ菜の 行事（区民、地元小学4 年生参加100名程度）、 マコモダケ栽培	従前行っていた公民館 まつりで、三角くじを 実施し、1等から4等の 景品と、末等の5等を全 区民に当たる様に、ゴ ミ袋として、区民参加 を促した。	湧水による河川美化作 業2回/年で区民全員参 加 区より伝達等公民館屋 外で実施
—	公民館まつり、輪投げ 大会	—	富士岡地区9か郷を巡る 秋祭り「吉田神社祭 り」。 由来は、御殿場地方一 帯に疫病が流行り、多 くの人が亡くなった。 そこで、その年に京都 に行き、吉田神社の御 分霊を招請することに した。	—	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
21	中山下区	納涼祭、公民館祭、敬老会、防災訓練、ラジオ体操会	<防災部長> 納涼祭、公民館祭り、防災訓練、3区（中山上、二子、中山下）合同敬老会	お誕生会、七歳児の祝、子供花火教室	—	集合しての活動ができないため、行事の該当者にお祝い品を配る等変更して実施。	3区合同敬老会、区主催誕生会、コロナウィルス感染拡大のため、中止となり、対象者全員にお祝い品を届けた。
22	風穴区	文化祭、輪投げ	何もない、風穴などで皆でもりあげたい。	ベタボード大会	—	—	—
23	中清水区	計画予定の行事は実施	<コミセン主事> 防災訓練や河川清掃は生活防衛上不可欠な行事は継続すべき。	—	文化祭は出品作品の確保が難しく、市主催の文化祭へ統合したい。	—	区の執行部の決定によりほとんどの行事が中止となった。役員としては、苦労なく助かった。
24	駒門区	例年実施している行事は今後も実施したい。	文化祭、町内清掃、防災訓練	—	葬儀の在り方は、コロナ禍での方法を定着させた方がよい。	規模縮小、回数減など	区民のつながり、意思疎通が難しくなった。
25	大坂区	夏祭り、防災訓練、敬老会式典、河川清掃、区内一斉清掃、神社の祭典、さいと焼き、歴史と伝統を学ぶ会	<コミセン主事> 納涼祭、敬老会、河川清掃、区内一斉清掃、防災訓練、神楽、神社祭典、元旦祭、大坂の歴史と伝統を学ぶ会	—	—	防災訓練：コロナ禍でコミセンの収容避難者数に制限が加わったため、今回初めて富士岡中学校へ移動訓練を実施。中山下、風穴区にも参加を呼びかけ、合同訓練とした。	【苦労】直前での行事変更の告知、組長会での書面説明、吉田神社祭典での対策 【工夫】行事規模の見直し、外注活用、ネット活用、ガイドラインの作成 【やってよかったこと】 コロナ対策の際の広域避難所への移動訓練を合同で実施したこと。
26	町屋区	ふれあいまつり、敬老会、ワンデーマーチ、こども相撲、文化展示会、夏まつり、新入学祝い 等	<副区長> 現状の行事を区として継続していく予定。	—	—	実施の可否の判断と時期	事前に区役員、組長、活性化委員の方々に意見集約として判断するように実施。

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
・子育てサロン、ふらり中山、元気になろう会 ・老人会（ときわ会）によるゲームやゴルフ等の実施	地域福祉推進委員が中心となり、公民館で行っている子育てサロン、居場所づくり「ふらり中山」、元気になろう会 等	—	設問4と同様	—	設問4と同様
若者は参加に消極的であるため、イベントを増やし、参加してもらう。	小さくても、どんどん焼きは良かった。	—	小さな区、新しい区なので、新しいニューリーダー（若い人）を欲しい。	—	日頃のコミュニケーション、リーダー、区民の協力性
—	先輩女性が子育ての手助けをする「子育てサロン」を行っていたが、それも今年度は中止となった。組織自体はあるため、コロナ終息後は再開予定。	神社祭りのおはやし	神社氏子を中心として、祭禮、報徳社を中心とした作業諸行事など、中清水区以外の組織による区民の交流の場がある。	秋の文化祭時に、レクリエーション等を実施し、区民の多くを集める。	参加して行事を消化すること自体に意味はないので、社会の変化に応じて行事の見直しを行い参加したい行事にしていきたい。
老人会は感染予防し、継続的に実施。	—	—	さいと焼き、子供会古紙回収	—	—
防災訓練とさいと焼きでは、中学生に協力してもらい、避難移動の誘導や、お飾りの回収、おんべの設営をしてもらった。 老人会には、特別支援学校の子供たちとポッチャを行い、交流を深めた。組織内の行事だけでなく、他団体、城外と交流することにより、繋がりが深まっていくと考えている。	・富士岡中学校のコミュニティスクールに賛同し、中学生を区の行事に参加・協力してもらう。（さいと焼きのおんべ作成、お飾りの回収、防災訓練の避難誘導） ・特別支援学校の交流授業に協力し、肢体不自由な生徒と老人クラブでポッチャを2回実施。	【伝統行事】 大坂湯立神楽：毎年お盆の後に、神楽を舞い、疫病退散と安全祈願を行う行事。 【公民館活動】 ・HPを作成し、活動紹介 ・コミセン便りを毎月発行 ・コミセン施設利用がネット申請可	・大坂湯立神楽、疫病退散の舞いと神事 ・吉田神社祭典、神幸祭、疫病退散、地域繁栄神事 ・コミセン便り、毎月1回発行 ・HP作成、会議室のネット予約 ・大規模災害時に組長、防災委員、防災リーダーに活動してもらうためのボランティア保険加入	・広報活動や組長への案内、回覧、HPの活用 ・コミセンのWi-Fi化 ・各種委員への任期付与、子ども達、生徒達に参加してもらう仕組みづくり	・中学生の参加、子ども（小学生）の歴史、文化の学習 ・各種の協力
老人会を中止し、プレゼントにて対応した。	R4.2月より、福祉活動の一環として、2カ月/回の予定で、公民館を開放。子ども広場、マスと赤ちゃんの部屋、大人の遊び場を作り、地域の人々との交流を深める目的で実施予定。	ふれあいまつり 多くの区民や近隣区から参加して、手作りの祭りを行っている。	【行事】地蔵尊相撲大会、神山夏祭り、敬老会、町屋区ふれあい祭り、ワンデーマーチ、町屋区ふれあい文化展 【活動】町屋区活性化委員会の実施（2カ月/1回）各部会が集まり経過報告会の実施	同一趣味を持った人が集まり、たくさんの活動を行っています。 （歌声、話し方、手芸、クラフトバンド、トールペイント）	各組回覧、ポスター掲示など また、組長会や活性化委員会での情報展開

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事实施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
27	高内区	現状を継続する	<コミュニティセンター委員長> コミュニティセンター祭り	—	—	区民間のコミュニケーションの低下	コロナ禍ですべて中止
28	尾尻区	挨拶運動、小学生の見守隊の継続	通学路の花壇手入れ	—	—	地区の重要な会合、協議が思うようにできなかった。	—
29	神山区	今後も継続して実施	ふるさと祭り 河川清掃	—	体育祭	ウォークラリーと花植チェックポイントで花植をしてもらって、密にならないようにウォークラリーを順番でスタートさせた。	実施の可否の判断 飲食類禁止
30	富士見原区	富士見原祭り	防災訓練、地区清掃、さいと焼き	—	—	—	—

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
神山地区生涯学習センター	コミセン祭り、子ども会、老人会	—	「コミセン祭り」出店、作品展示、模様品、その他	—	—
挨拶運動、対話による 住みやすい地域づくり活動	—	—	—	—	—
【収穫祭】 ウォークラリーと花植 やグランドゴルフ等を 各チェックポイントで 行い、密にならないよ うに実施。参加者に は、抽選で景品を出し て喜ばれた。	—	設問4と同様	ふるさと祭り、ウォー クラリー、花いっぱい 運動、さいと焼き、時 之栖の協力のもとカラ オケ大会や抽選会を行 う。	区民の参加する行事 は、設問5の収穫祭だ けであるため、大変喜 ばれた。	各委員への協力要請と 各世帯への案内配布
—	集会所：富士見原カ フェ、元気になろう 会、ふれあいクラブ	—	—	—	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
【原里地区】							
31	川島田区	どの行事もできる限り継続したいが、参加者が少なくなってきたので規模縮小等を考えながら、やっていく	文化祭、夏祭り、河川清掃、防災訓練	—	体育祭	初めての試みとして『区長だより』を発行し、既に17号まで発行した。（最終的には20号まで発行予定） （1）区長としての考えを常に語った。 （2）行事を中止するまでの過程を具体的に記載した。 （3）区内の記念碑や高齢の方の作品等を紹介した。	—
32	森之腰区	体育祭、文化祭、夏祭り	<公民館主事> 文化祭、夏祭り	—	—	中止したので特になし	防災訓練
33	杉名沢区	盆踊り他 区民が楽しみに待っている行事を進めたい。	体育祭、文化祭、夏祭り、防災訓練など	—	—	成人式 神社で式典を行い、玉串奉典など新成人に宮司から指導をいただき、社会人、地区民としてスタートを切れた。	人の集まりなどソーシャルディスタンスに気を付けること
34	神場区	防災訓練、河川清掃、地域福祉活動（七夕祭り、サロン）	夏祭り、敬老会、子ども神輿、防災訓練、各種総会	区体育祭（原里地区体育祭があるため）	—	・コロナ禍のため、約2年間主要な事業が行われていない為、小さな行事が行われていて、交流の場が少ないので情報が伝わりづらい。 ・役員の教育（伝承）ができない。各種行事の執行方法	人数制限のため、役員だけの開催とした。 要望等を聴取し、各行事の実施に反映。
35	板妻区	今年中止となった行事もすべて継続していきたいと思う。	全て	—	—	主要行事が中止になったことで、区の役員で奉仕作業としてカーブミラー（区内）の清掃を行いました。	会議での人数を減らす。 三つの回避 各種区内団体との調整

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
区民の気持ちが区の行事から離れないようするためにも『区長だより』を発行し続けた	—	(1) 三区合同の三吉神社秋季例大祭 ・川島田、森之腰、矢崎 ・子供太鼓や神輿渡御 (2) 広源寺例祭の子供角力	秋祭り（日吉神社）	今年はコロナのために行事がほとんどできなかったが、マンネリ化しないように現在にあったやり方や内容にしていきたいと思っていた。	—
子供食堂（公民館で食事を作り、配布している） 老人会（ミニヤクラブとして） 小学校の通学時、挨拶運動	文化祭における餅つき大会	公民館活動として公民館だよりの発行	—	コロナ禍では多勢の人々が集うことが無理	文化祭、夏祭りにおける出店
—	子供会と老人会との交流	—	秋の大祭に浦安の舞を小学5、6年生が五穀豊穰や無病息災を願い、無事を祈り舞う。氏子や地域の役員など出席する。	—	—
・子ども会による「子供神輿」今年度は、写真撮影のみ ・区と山神社にて「七歳児の祝い」父兄と七歳児と役員にて祈禱氏神様と地域とのつながりを知ってもらう。 ・区主催にて「敬老を祝う会」今年度は中止。	・例年の夏祭り実施時、多くの区民の参加を得るため、全戸に福引券を配布。 ・中学生と老人会による「だんご作り」の実施 ・子供会による新入学児童を祝う「子ども神輿」に実施。	・設問4と同様 ・地域福祉委員にて、七夕祭りを子供たちと一緒に行う。今年は規模縮小とし、子供たちは七夕祭り用の竹と飾りを配布。	・山神社及び第六天満宮大祭 ・山の神講 ・さいと焼き	・組長定例会にて各行事のアナウンスを実施。組長会の議事録を各戸回覧し、周知している。 ・コロナ禍のための今年度に限り「広報誌」を発行し、小さな行事を紹介した。	広報誌を作成し、活動を区民に知ってもらい、各行事への参加意欲の向上を図っている。
区内広報誌（すぐち）の発行。 今年は実施できませんでしたが、春の例大祭時の子供神輿。 盆踊り大会、文化祭は子ども会、老人会、婦人会の参加により、親睦が深まる。	区内誌（すぐち）にて広報	春例大祭（子供神輿、神楽、厄年の餅まきなど） はちはらい神楽（一年の無病息災を祈願し、昔は1軒1軒回っていましたが、現在は公民館と希望するお宅のみ実施。）	伝統行事、ハチハライ神楽	区内広報誌に日程やプログラムをのせ、抽選券や粗品引換券をつけて大勢の方に参加してもらうようにします。	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
36	保土沢区	今まで行ってきた行事はすべて継続していきたい。	—	—	—	行事が中止となったことにより、区費の削減や免除はせずに区民に抽選方式で保土沢区の商店だけで使用できる商品券を配布。（夏祭り、文化祭の経費相当分の還元と保土沢商店街の活性化を目的とした。）	—
37	永塚区	—	さいと焼き、歩け歩け大会	—	—	—	コロナ対策としての換気対策（夏は虫、冬は寒い） 永塚区のコミセンはまだエアコン設備が設けられていないため。
38	北畑区	納涼祭、敬老会、文化祭は区民交流の貴重な機会のため、継続	概ね継続	準備段階を含めて区民交流の意義があり、現状程度は必要と思う。但し、納涼祭は各区合同で友愛パーク等において実施してもよいのではないか。	—	原里区長会での話になるが、各区長間でのグループLINEの連絡網は各区の問題解決に有効であった。	実施か中止かの判断
39	大沢区	防災訓練、道路河川清掃	クリスマス会（子ども会主催）	体育大会	—	感染者数の増減に対応して実施中止を判断し、周知する苦労、老人会、子供会の元気維持のため工夫してなるべく実施するよう進めた。	実施するかの検討会を何度か開催したこと。
40	矢崎区	防災訓練、河川清掃	—	—	—	区民相互のコミュニケーションのきっかけ作りが思うようにできない。入居者の入れ替わりがあっても、顔を合わせての挨拶ができないため、戸別の顔出しを求めた。	—

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
7月末に行っている子供相撲は、中止となったが子供達と父兄が神社の清掃を行った。相撲が中止になれば清掃も中止となっていたが、相撲の開催に関係なく、神社の清掃を毎年行うように決定した。	—	—	—	組長定例会での周知（区民への回覧） 公民館だより（年5回発行）全戸配布	—
—	—	—	—	—	防災訓練時、防災非常食を配り、参加者を多くさせている。
—	—	北畑神楽（神楽保存会の活動）	文化祭における子供神楽の実施	—	—
高齢者訪問 子育てサロン（幼児と親） いきいきサロン（老人会と子どもなど）	子ども会、青い鳥	区内にある穂見神社の高尾さんの祭りを11月末日夜行っている。	穂見神社の春・秋季大祭	福引を行っている。	回覧板、各組長・班長の呼びかけ
—	—	—	—	—	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
【玉穂地区】							
41	茱萸沢下区	さいと焼き	<公民館主事> 納涼祭、敬老会 一人家庭の見守り活動	—	—	—	コロナ禍でできなかったが、R4.1月に丸2年ぶりにお茶のみサロンを開催でき、サロンに来た人達から喜んでいただいたこと。
42	茱萸沢上区	コロナの状況により無理な実施は控える。	—	文化祭、地区の運動会（子どもがいない）レクリエーションに変更	—	活動の際の留意事項 マスク着用：区でも用意 消毒、健康管理：簡易体温計（サーモグラフィ測定器が欲しい） 安全な距離：少人数、プラスチック板	—
43	中畑東区	区の定例会及び総会を少人数での実施	—	区民体育祭	敬老会の余興	前年並の実施のため、これといって苦労はなし	実施内容の判断
44	中畑北区	防災訓練	道路整備等は大切なものでコロナ禍でもできる作業である。ゴミ回収の見直しもしたい。	体育祭、体育振興会の行事	—	区民同士の一体感が取れないこと	12月に正月の各家庭用生け花を行う。これまでは、公民館に集合し講師の指導の下行っていたが、各自事前に指導を受け、家庭で生けた。
45	中畑南区	文化祭、夏祭り、防災訓練	<副区長> 神事や清掃など維持活動、少人数でも可能な活動、区民のコミュニケーションづくりに必要な活動	—	飲食主体な活動	組長、各種団体長による公民館周辺清掃	行事の継続性がなくなってしまう不安、区民の行事への無関心化
46	中畑西区	区内の神事	<副区長> どの行事も継続していきたい	運動会	—	—	定例会を体育館で行う。時には、組長だけの集まりにした。組長・班長が個別に来れる形で交流を図ったが、効果的といえなかった。
47	川柳区	防災訓練、河川清掃、夏祭り、文化祭	—	体育祭	—	飲食ができないので、懇親を図る機会がなかった。防災訓練・環境美化作業は、時間を縮小して行ったが、必要なことなのでよかった。	—

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
—	・老人会 ・一人家庭への見守り活動を地区でのお茶のみサロンをほぼ毎月実施しているが、年に何回か行き様子をうかがう。	—	さいと焼きを下区は二か所の場で行っている。	—	・納涼祭、文化祭 ・感染防止のため、消毒・検温の実施、また終了時には清掃（公民館）を行っている。
—	—	—	—	—	—
—	青少年健全育成会が主となり、親子体験	—	—	—	広報活動
子ども会、老人会など各種団体	コロナ禍のため、集会することができず残念であった。	山の神溝、水神溝、金毘羅祭、高尾祭、風祭り	夏祭り：各団体が食べ物の販売を行う 公民館祭り：各自の得意なものを出し合う →区の親睦を深める	—	公民館祭り：ビンゴゲームや輪投げ等を行い多くの人に参加してもらう。
—	2年間すべての活動が縮小	—	—	—	今後は広報活動を充実させたい。
プロ野球、サッカー、バスケット、ラグビー等の観戦	・シニアクラブが年間を通して様々な活動を行い、県から表彰された。 ・ゆうゆうサロンでは誕生日プレゼントを贈る活動 ・敬老会でのプレゼント配りなど	【八王子神社】神事、子供相撲安全祭 【愛富神社】神事のみ 【弘法堂】神事のみ	・滝ヶ原不動尊祭典、子ども相撲は行わなかったが、少人数にして祭典は行った。 ・西区だけでなく、中畑四区の行事だが、八王子神社祭典 ・子ども相撲は自粛したが、縮小して祭典を実施した。古文書などの虫干し	—	一度やるところを数回に分けて行う。 区全体でやらず、組や諸団体、同好会などで区民参加場面を増やしてもらう。
地域づくり活動、今年度はコミセンの花壇苗植え替えを実施、屋外活動のみのため、今年は、参加者に寄せ植え体験を行い、持ち帰ってもらった。	—	・地藏尊祭り・ドンデンジャン・百万遍念仏 ・幣束づくりとうちわ太鼓による舞	地藏尊祭り（ドンデンジャン）・霜祭り・風祭り（2回）、子安講（2回）、山の神講 不動尊祭典、新年拝賀式	回覧による周知と役員・世話役人による声掛け	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦労したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
【印野地区】							
48	小木原区	風祭りおよびレクリエーション大会、秋祭り、防災訓練、新年挨拶会	夏祭り、防災訓練、清掃	—	—	行事が縮小されたため、抽選会を行い景品や弁当を支給した。	L I N E 登録を募り、情報交換している（組ごと）区全体でできたらよいが。行事は縮小して、安全第一で行えてよかった。（夏祭り、風祭り）
49	時之栖区	従前の行事は全て継続できると思う。	今までどおり実施。ただし、状況により内容変更	—	—	区民を集める行事は、中止したものもあるが、なるべく規模を縮小して実施した。区内の伝統をつなぐことができた。	感染対策（アルコール消毒、体温チェック、三密回避等）行事内容の変更
50	印野区	コロナ前と同じ行事を継続していきたい。	防災訓練、コミセン祭り	—	—	計画した行事を実施するかしないか決断するのに苦労した。	—
【高根地区】							
51	塚原区	—	区文化祭は毎年実施していたが、令和2～3年度は中止。継続していきたいと思う。	—	—	—	<苦労点> 区行事は、区民対象とする事業で多数の人が集まる。コロナ禍で実施する方法が分からなかった。公民館の規模（広さ）などで人と人が密になる事業が多い。飲食をする事業も多くある。
52	六日市場区	—	—	—	—	—	—

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
—	グループLINE	檜の観音様例祭（毎年、5年に1回例大祭）区や地区の役職で参拝 風祭り 区民で神社に参拝後、子供相撲やレクリエーションを行う。 吉田神社神輿 実行委員により地区内を巡行	—	主な行事の時は景品や弁当を出している。	みんなが喜ぶ参加賞を用意する
—	—	風祭り：神事及び奉納子ども相撲	風祭り（式典、奉納子ども相撲 等）	—	コミセン祭り（飲食、催物、抽選会等）、スポレク大会
—	—	護摩祭：区の菩薩寺である光真寺横の広場で、8月下旬ごろに区民の無病息災を願い行う行事。その際、富士宮市村山から法印さんを招き護摩焚きをする。	—	—	防災訓練終了後引き続きコミセン祭りを同日で実施する（コロナで防災訓練のみ）
—	【区福祉推進委員会】 ①子育て支援サロン：0歳から就学前の親子を対象 ②いきいきサロン：高齢者を対象とした交流会 ③元気になろう会：高齢者を対象の運動 【地域づくり委員会】 里山活動：ハス田の整備、パークゴルフ場の整備等している。多くの人が見学に訪れてもらえるようにしている。	—	神楽舞：区民の健康と安全を願う。伝統芸能保存会の方々が行っている。	—	区夏祭り、文化祭が主な事業だが、区の各組織（子供会、中学通学区、婦人会、楽寿会老人クラブ）等で活動している。
—	—	—	なりもっそ：子ども会で実施。 奉納子ども相撲：夏の神社例大祭の時に実施。	—	—

番号	区名	2-1：コロナ禍の行事実施状況を踏まえ、今後も継続していきたいと思う行事		2-2：これを機になくしてもいいと思う行事		3、コロナ禍で、苦勞したこと、やってよかったこと、工夫したこと	
		区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
53	美乃和区	—	従来からの行事は継続すべきと考える。	—	—	常に状況が不明確であったため、何事も待ちの状態で結局やらないことが一番に落ち着いてしまう。積極的な姿勢に終始した。	—
54	清後区	地域福祉の団体に於いて、子育て支援80歳以上の老人の集まりができない場合は、楽しんでもらうものを配布、食糧支援を実施していく。	夏祭り、文化祭や区の諸行事	高根地区運動会は必要なし	—	区全体会議（常会）が開けない。各種団体区副役員を集め、役員常会に切り替えたこと。	役員会議等人集めに必要最低限での実施で意思疎通が難しく苦勞した。 少人数だとLINEグループでの会議
55	山之尻区	全て	—	—	—	敬老会で式は中止、記念品配布	—
56	柴怒田区	夏祭り、文化祭	体育祭、文化祭、夏祭り、防災訓練、環境美化作業	年度末の総会	—	公民館使用制限に対する理解を得ること。	地域活動委員会主催の行事は文化祭・夏祭りだけなので中止となり、活動しなかった。
57	上小林区	夏祭り、体育祭、区民祭、防災訓練、道路河川清掃	体育祭、文化祭、夏祭り、防災訓練	基本的にはなし	—	実施後の誹謗中傷が気になり、躊躇してしまい実施できなかった事業もあった。成人式七歳児の祝いは昨年実施しなかったため、今年度実施できて良かった。成人者にも大変喜んでもらい、良かった。	中止のため不明
58	水土野区	防災訓練	—	体育祭、夏祭り	—	回覧板による事前の啓蒙活動を迅速に実施した。無理して区民を集めずに役員会で決定して実施した。	—
59	古沢区	体育祭、文化祭、夏祭り、防災訓練、河川清掃	全行事（地区区長会等の判断、指示による）	—	地区区長の判断による	各行事、各種会議への参加者制限	月1回発行の広報誌が発行できない（地域行事中止のため） 消防団特集として、団員紹介や活動内容を載せた。

4.地域・家庭の繋がりを深めるための取り組み		5.各区の特色ある行事・活動の名称とその内容		6.区行事により多くの区民に参加してもらうために行っていること	
区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事	区長	地域づくり活動主事
—	—	—	—	—	区敬老会の内容を変更して実施した
地域福祉事業に力を入れている。 ・幼児を持つ親子の集まり「ハッピーワールド」：公民館に集まって楽しく遊ぶ。花壇の整備（七夕、クリスマス会、「清里の会」との合同事業、流しそうめん） ・80歳以上の老人の集まり（年4回）午前中公民館に集まって楽しく遊ぶ。	子ども会、老人会	—	—	元旦マラソン 清郷ネットの活動（花壇の整備、河川・道路の草取り、ゴミ拾い）	夏祭り、文化祭、元旦マラソン大会
—	—	伝統行事…竹馬会、42歳の役年者の祝い	さいと焼き、竹馬会	—	—
福祉部会の手芸品等の作製と子供へのプレゼント	各種団体に任せてある。	子神社祭り：子ども神輿 初詣をする会：花火など	・神社の祭典（10月には子ども会主催の子供神輿等） ・1月のさいと焼き	—	—
老人会と子ども会による公民館の花壇の花植えの作業。	子ども会	さいと焼きは各組ごと実施しているので、組の色がでる。	どんたく（高根）	—	—
—	—	—	—	回覧板の多用 月に2回以上発行	—
子供会、婦人会	お年寄り、中年、青年、子どもと参加できる一部の人達と、区メイン道路横にイルミネーションを飾ったこと。	一幣司浅間神社の行事 例祭、春祈祷、輪くぐり、風祭、新穀感謝祭、元旦祭、筒粥 など	浅間神社（お祭り）	—	コロナ禍で2年間中止、縮小。

令和3・4年度社会教育委員会報告書
「ウィズコロナ・アフターコロナの地域づくりについて」

発 行 令和5年2月
発行者 御殿場市社会教育委員会
事務局 御殿場市萩原483番地
御殿場市教育委員会 社会教育課
電話 0550-82-0339 Fax0550-81-0370